

審議会等の会議結果報告書

【担当課】生涯学習課

会議の名称	美術品寄附等検討委員会		
開催日時	令和5年7月28日(金) 午前10時00分～午後0時00分		
開催場所	茅野市役所 7階704会議室		
出席者	<p>【委員】 伊藤彰敏委員長、牛山政幸副委員長、藤森民雄委員、田中正行委員、矢崎美知子委員、金井直委員、大竹永明委員、伊藤羊子委員</p> <p>【茅野市美術館】 久保祥剛(株)地域文化創造代表取締役社長、前田忠史茅野市美術館長</p> <p>【事務局】 竹内こずえ生涯学習課長、伊藤利恵文化芸術担当</p>		
欠席者	島立幸男委員、五味恵子委員、山口和枝委員		
公開・非公開の別	一部非公開	傍聴者の数	0人
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
社長	<p>1 開会</p> <p>2 (株)地域文化創造 代表取締役社長あいさつ</p> <p>皆様、夏真っ盛りの暑い中にお集まりいただきありがとうございます。本日はよろしく願い申し上げます。今年度は茅野市民館の指定管理期間の新しい1年目となります。昨年度公募が行われ引き続き5年間、我々株式会社地域文化創造が指定管理者として館の管理運営をすることになりました。いろいろな部分で気持ちを新たに考えていきたいと思っております。また今年度は茅野市民館が開館してから満18年で、人でいいますと成人の年齢ということになりますので、より社会の関わり方を考えながら運営をしていきたいと思っております。3年続いた新型コロナウイルス感染症の社会系影響もようやく落ち着いてくる中で、茅野市民館・茅野市美術館もだいぶ日常を取り戻しつつあります。マスクを外しての対面、近距離での対応等、密な状況というのは避け、館内の換気などにも気をつけつつも、劇場の客席制限、美術館の入館者数の制限ですとか、入館者の全員把握もなくなり、市民館、美術館、図書室の開館時間、ロビーのソファやテーブル等といった交流に繋がる機能も全部もとに戻し、館を訪れる方もだいぶ戻ってきております。ただ昨年度は新たな不測の事態もございまして、ロシアのウクライナ侵攻に端を発する物価上昇の影響で、特に市民館の光熱費の部分に非常に大きな影響を受け、現在もこれは続けております。我々株式会社地域文化創造の経営がこれによって厳しい状況になっております。この状況に対応するために、5月の取締役会におきまして会社の組織的な構造改革を行い、より効率的な人員で現場業務の推進力及び精度を上げる布陣にいたしました。具体的には、前田取締役、竹内取締役、辻野取締役顧問が取締役からは退任し、前田は事業統括本部長及び美術館長という立ち位置になります。竹内は総務統括本部長、辻野は重要な使用人としてシニアディレクターに着任しております。自主事業に関しても、収益に繋がるような新しい事業モデル等も考えながら、今後は定着させていくことを目指すようになります。そういったいろんなことがある中、今年度も茅野市民館・茅野市美術館では、幅広い方々に向けて多くの事業を行ってまいります。今年度は事業テーマを「ヒラメキをカタチに つなげよう、届けよう」と</p>		

し、市民館の基本姿勢であります、みんなのひらめきをみんなで形にしていくということを表しつつも、18年の運営の中でまだまだ足りてない、皆様に届けることを特に大切に事業計画を実施していきます。近々の劇場の事業をご紹介します。7月8日、15日、17日の「第3回蓼科高原音楽祭」では、クラシック文化をこの地へ広げていくことを目指している市民の実行委員会の皆さんによる企画で、3公演で合計959名のお客様が来場され音楽鑑賞を楽しまれました。8月11日にはこの地域の和楽器を演奏する方々が、流派にこだわらず個人やグループで練習し発表する共催事業の「万華鏡コンサート」が行われます。また、提携事業として長野県で長期活動を続けている劇団夢幻工房は、信州アーツカウンシルの方からも支援が入っている事業で「ファンタジーミュージカル チュイチュイ～左手のバイオリン弾き」の公演を8月13日に行います。茅野市民館 みんなの劇場 オペラシアターこんにゃく座 オペラ「ルドルフとイッパイアッテナ」は、通常ですと茅野市内の全小学校4年生向けの公演ですが、コロナでスケジュールがずれておりまして今年度は茅野市内小学校5年生と6年生を全員招待し行います。あわせて一般公演を10月4日に行います。また、館内に季節感をもたらす市民館を身近に感じていただきアートとの出会いの機会となる市民館デコレーションも、今年は夏休みの期間に「空想すいぞくかん」ということで、地域のこども館に来る子どもたちから絵を集めて、8月2日から27日までサポーターさんの作った飾りとともにロビーのガラス面に展示します。美術館は、夏の企画展「CONTACT-情景をひらく」を実施中です。関連企画として小学校へのお出かけ美術館等もあります。その後も「寿齢賛歌-人生のマエストロ-写真展18」、「常設展」と控えております。美術館の事業に関しては後程前田美術館長よりご説明させていただきます。劇場、美術館ともに市民の皆さんにご利用いただく事業も含め、本当にたくさんの事業を行っております。ようやくコロナのこともあまり気にせずに出かけられるようになってきましたので、皆さんも是非こちらの方に足をお運びいただければと思います。説明の方長くなりましたけれども、今回の寄附等検討委員会では、内規の見直し等が議題でございます。これからの未来を目指した新たな美術館像を目指し、お集まりの委員の皆様のご知見を持ってご意見をいただきたく思いますので、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

3 茅野市美術館長あいさつ

美術館長

茅野市美術館長の前田です。本日はお忙しい中、委員会にご出席いただきありがとうございます。現在の美術館の状況ですが、茅野市美術展公募展はコロナで中止になっていたのが昨年度から復活、館内のギャラリートークも今年度からは対話をする回数も増えてまいりました。今「CONTACT-情景をひらく」という4名の作家による展覧会も開催しています。諏訪市出身の池上武男さんは、墨やアクリル絵の具の造形から、「偶然に必然を重ねることから生じるリアル」を求める画家。茅野市在住の写真家の山内悠さんは富士山、モンゴル、屋久島の自然と接しながら写真を撮り続けている方。茅野市出身の五味謙二さんは茅野市縄文ふるさと大使で、土と素材感と風化の質感で作品を作られている陶芸家。茅野市出身の橋口優さんは、子ども頃の情景や、山、それを油彩画や羊毛フェルトで作られている画家になります。茅野市美術館としては、常にこの地にあるものは何かということ、企画展を通して見つめていければと考え、今回は情景をキーワードに進めています。アーティストトークも今年度からは美術館内で作品を前にしてお話いただくということになっています。久保社長も申し上げましたが、お出かけ美術館という学校への出張

	<p>事業もしますが、対話による作品鑑賞と造形表現活動を3時限でやる予定です。昨年は、オンラインで作家の方とつないでやりましたが、今年度からは、実際にお越しいただいてのワークになります。コロナ禍でそういった対話がオンラインというところもあって、なかなか重ねられなかった部分もありますが、オンラインで学んだところもありますので、それをうまく併用しながら今後も美術館活動を進めていければと思っています。以上、美術館の様子をご挨拶に代えさせていただきます。</p>
<p>委員長</p>	<p>4 委員長あいさつ</p> <p>皆さん本日は暑い中ご苦勞様です。本日の寄附等検討委員会は、代表者の方で検討しておりましたが、昨年来から委員会の方に写真の収蔵の件や内規について見直しをしたら如何かということで代案を考えておりますので、皆さんでご検討いただきたいと思います。特に写真につきましては、記録写真、報道写真、芸術的な作品、複製写真、著作権の件などいろいろございまして、非常に難しい問題があります。ある程度内規の中で一線を引くことで明確化していければと考えております。皆さんで慎重審議をよろしく願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>5 会議事項</p> <p>(1) 会議の公開についての確認</p> <p><資料説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議会等の会議の公開について ・茅野市審議会等の会議の公開に関する要綱 ・審議会等を非公開とする基準
<p>委員長</p>	<p>それでは本委員会において、特定の団体、個人に関する部分については非公開とし、それ以外の事項については公開するというところでよろしいでしょうか。</p> <p>異議なしということで、よろしく願います。</p>
<p>事務局</p>	<p>(2) 美術品寄附等検討委員会について</p> <p>～以降、茅野市審議会等の会議の公開に関する要綱第3条第2号及び第3号の規定に該当する部分は非公開とします～</p> <p>皆さん今日も大変貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございます。委員長も言ってくださったとおり、今日いただいたご意見を基に、いろいろな方向性を考えながら、次回の委員会の時までには、いろんなことがまとまって、ご報告できるような形になっていけばいいなと思いました。それでは以上をもちまして、茅野市美術品寄付等検討委員会を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました</p> <p>6 閉会 (午後0時)</p>